

個体群管理の結果について

○平成 29 年の捕獲・混獲結果のまとめ（値はすべて速報値）

定置網（春期・秋期）及び刺し網により、137 個体のゼニガタアザラシを捕獲した（2 月に学術研究のため試射により試験捕獲した 1 個体（成獣・オス）を含む）。混獲については、漁業者からの提供や情報提供により 70 個体が確認された（表 1）。

捕獲された個体の年齢構成については、1 歳以下（幼獣）が多かった（当歳：45.3%、1 歳：26.3%）。性比については、全体としてメスの比率が高かった（図 1）。

なお、本資料においては、成長曲線に基づく推定年齢が 5 歳以上の個体を成獣（性成熟した個体）とし、2 歳から 4 歳の個体を亜成獣と区分した（回収不能の混獲個体については漁業者による年齢推定も含む。）。

表 1. 平成 29 年 捕獲及び混獲結果の総括表

	個体数	内訳
捕獲	137 個体（♂56、♀81） 当歳：60（♂25、♀35） 1 歳：36（♂16、♀20） 亜成獣：17（♂8、♀9） 成獣：24（♂7、♀17）	春定置：24、秋定置：10、 刺し網：102、 学術調査（銃試射）：1 （学術調査目的の再放獣 3、再捕獲・再放獣のべ 3、逸出 3 は含まない。）
混獲	70 個体（♂21、♀39、性不明 10） 当歳：17（♂4、♀8、性不明 5） 1 歳：20（♂3、♀17） 亜成獣：26（♂13、♀13） 成獣：1（♂0、♀1） 年齢不明：6（♂1、性不明 5）	春定置：5、秋定置：59、 カレイ刺し網 6

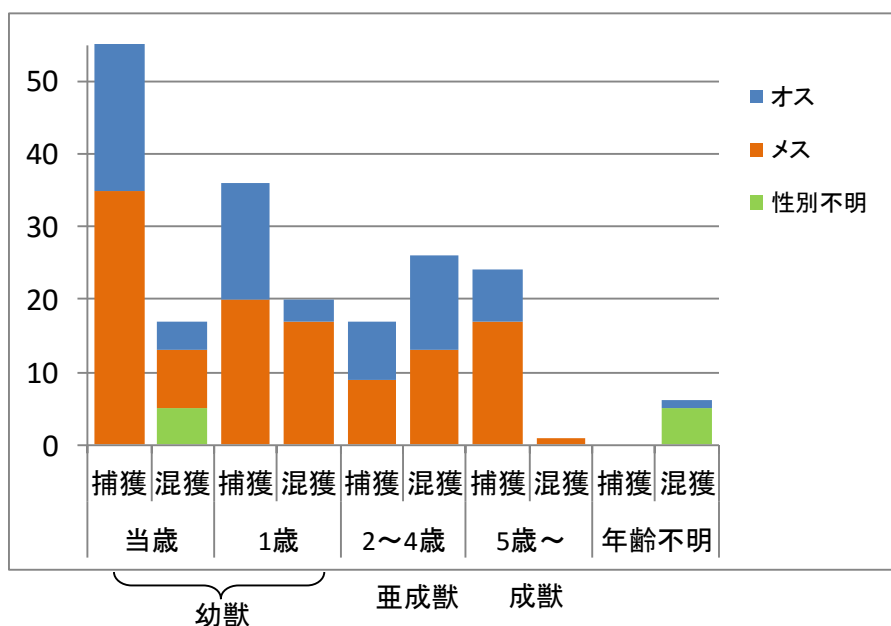


図 1. 平成 29 年 捕獲及び混獲個体の推定年齢及び性別

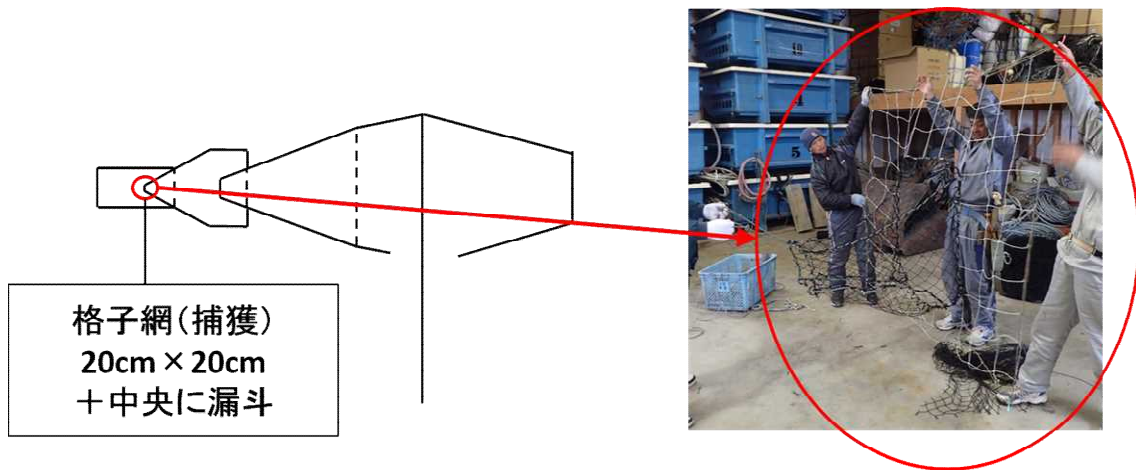
<手法別捕獲結果>

① 定置網による捕獲

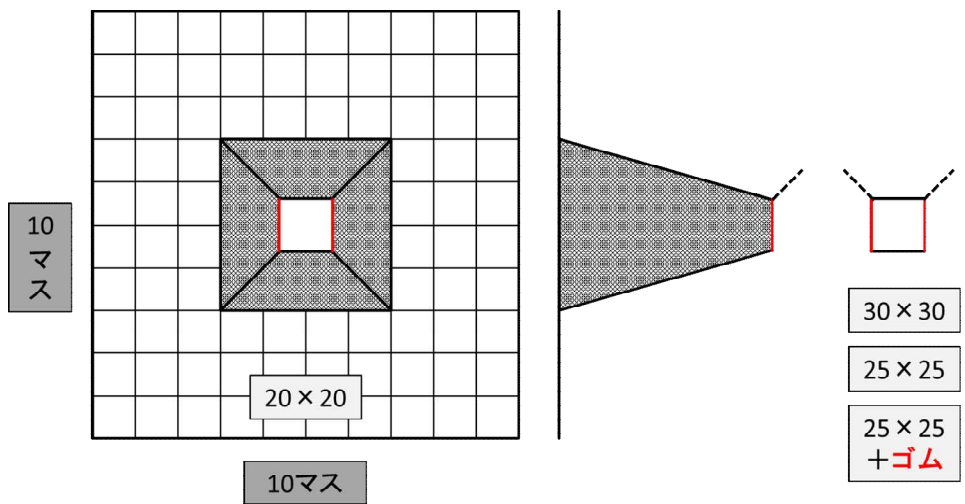
定置網を実施している東洋地区（春期）・襟裳岬地区（秋期）で定置網漁業者の協力を得て、捕獲用として入り口に漏斗式の網を装着してゼニガタアザラシが脱出しづらくした網（図2）をのべ82日間設置したところ、34個体が捕獲された。

表2. 定置網捕獲の総括表

方法	期間	結果
定置網 (捕獲用)	H29 総括（春期+秋期）	34 個体 当歳 : 3 (♂1、♀2) 1歳 : 5 (♂3、♀2) 亜成獣 : 7 (♂4、♀3) 成獣 : 19 (♂6、♀13)
	(春期) 捕獲網設置期間 : 5月22日~6月26日 (36日間設置、 33回網起こし) (施業期間 : 5/19-7/1)	(春期内訳) 24 個体 当歳 : 2 (♂1、♀1) 1歳 : 4 (♂3、♀1) 亜成獣 : 2 (♂2) 成獣 : 16 (♂5、♀11)
	(秋期) 捕獲網設置期間 : 9月6日~10月10日、 11月7日~11月17日 (46日間設置、 24回網起こし) (施業期間 : 8/31-11/17)	(秋期内訳) 10 個体 当歳 : 1 (♀1) 1歳 : 1 (♀1) 亜成獣 : 5 (♂2、♀3) 成獣 : 3 (♂1、♀2)



春期捕獲網



秋期捕獲網

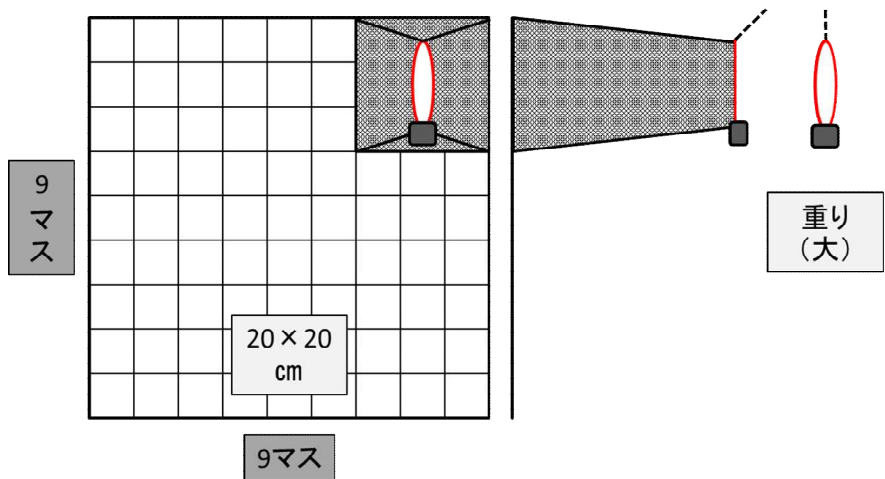


図 2. 春期と秋期の捕獲用捕獲網構造

(春期)

春期に定置網を実施している東洋地区で定置網漁業者の協力を得て、捕獲用として入り口に漏斗式の網を装着してゼニガタアザラシが脱出しづらくした網(図2)を5月下旬から6月下旬までのべ36日間、設置したところ、24個体が捕獲された。捕獲個体の年齢構成は亜成獣以上が18個体と多く、性比は成獣がメスに偏っていた(表2)。

当初、漏斗の出口を30×30cmとしたところ、1週間で7個体の成獣を捕獲することができたが、水中カメラの映像から、漏斗式格子網を出入りする個体が確認されたことから、漏斗出口のサイズを変更したり、出口にゴムを装着したりするなどの工夫を行った。捕獲個体数と漁獲尾数の間に顕著な関係は確認されなかった(図3)。

その後も捕獲数は少ないものの、亜成獣・成獣が断続的に捕獲されており、被害を及ぼしていると思われる亜成獣以上を捕獲する有効な方法であることが確認された。一方、サケがほとんど捕獲されておらず、今後とも、漁業者、有識者の意見を踏まえ、捕獲網の構造等を改良していく必要がある。

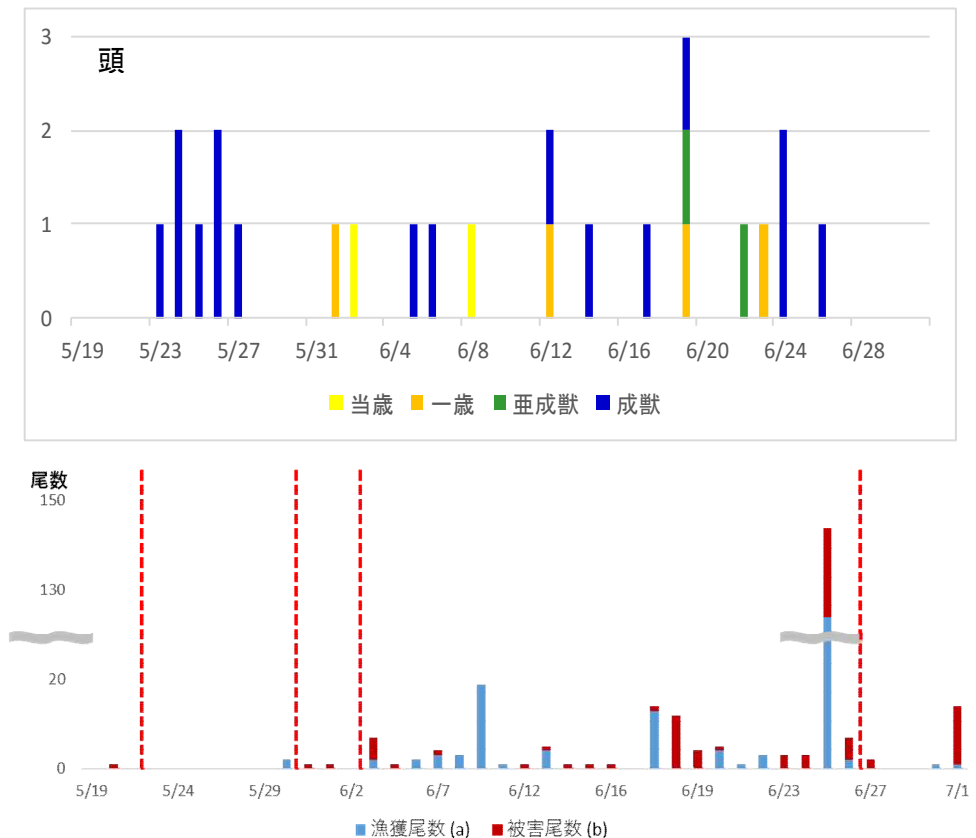


図3. 上：アザラシ捕獲状況（春期定置網）  
下：同網における漁獲尾数と被害尾数

(秋期)

春期に捕獲成績がよく比較的大型の個体を捕まえることができた「漏斗式」の捕獲網を秋期も用いた。構造は一部変更している(図2)。

捕獲網設置(9/4)後、日を置かずに比較的大型の2個体と幼獣1個体が捕獲されたが、その後しばらく捕獲されず、10/13に一旦捕獲網を回収。その後、有識者の助言を踏まえ捕獲網を改良(漏斗の入口を広げ、外枠のスリット目合いを20cmx20cmから16cmx16cmに変更)し、11/6に捕獲網を再設置したところ、設置後(11/8, 13, 17)亜成獣以上6個体を捕獲した。

これらの結果から、アザラシの慣れや学習を避けるため、「時々網の位置を変える」「しばらく外して再設置」等の手段をとることが効果的である可能性が示唆された。

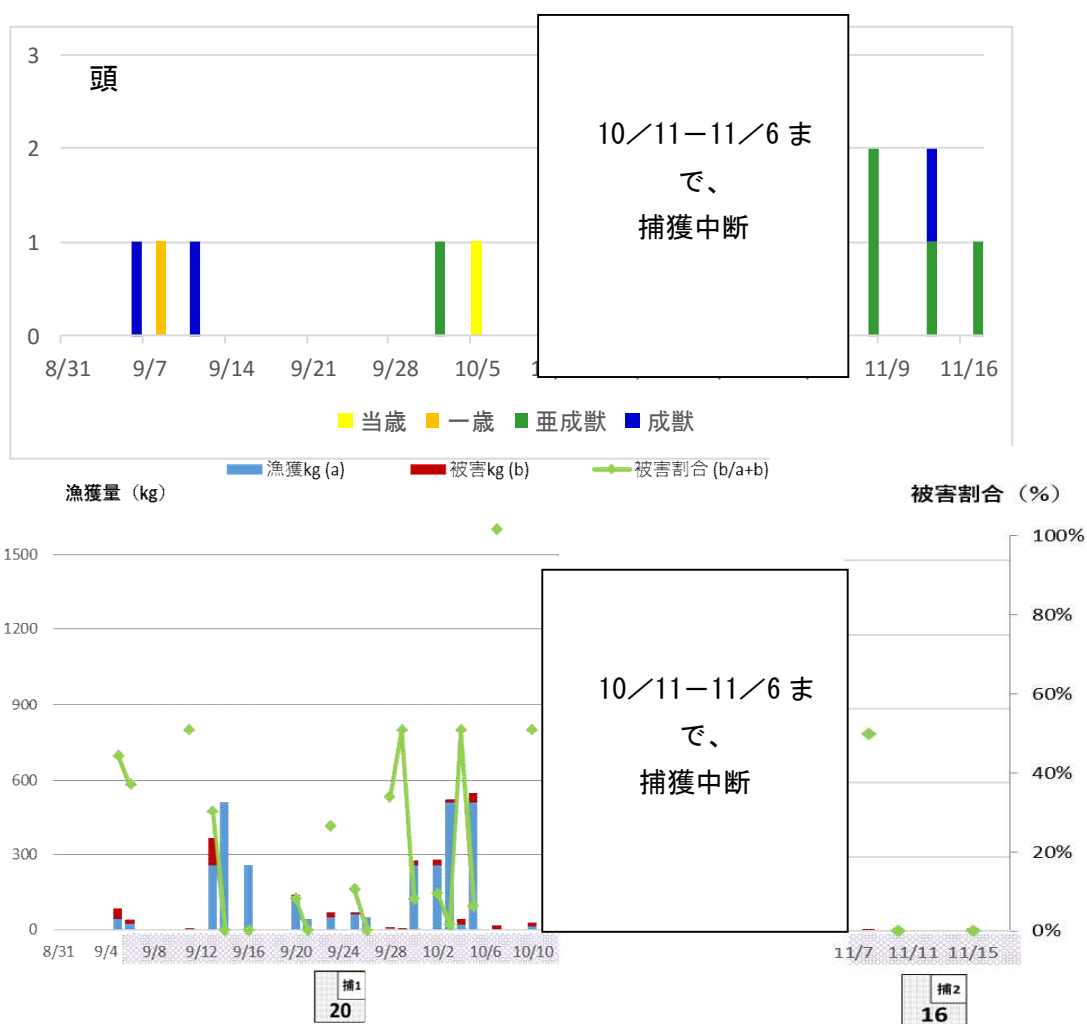


図4. 上: アザラシ捕獲状況(秋期定置網)  
下: 同網における漁獲尾数と被害尾数

## ② 刺し網による捕獲

襟裳岬岩礁付近において、漁業者の協力を得て 11 回（1 回あたりの海上での作業時間はおよそ 3 時間程度）、刺し網による捕獲を実施し、102 個体が捕獲された（表 3）。捕獲個体の年齢構成は 102 個体のうち 88 個体が 1 歳以下の幼獣であった。性比については、1 歳・亜成獣に顕著な偏りはなかったが、当歳・成獣はメスに偏りが見られた。

表 3. 平成 29 年 刺し網捕獲の総括表

方法	実施回数	結果
刺し網 （襟裳岬岩礁付近 10 回、西岩礁 1 回）	11 回 実施日：5/31、 6/5, 7, 13, 27、7/9、 8/17、9/8、10/19、 11/3, 13	102 個体 当歳：57（♂24、♀33） 1 歳：31（♂13、♀18） 亜成獣：10（♂4、♀6） 成獣：4（♀4）

5 月末から 7 月上旬までに連続的に実施した春期の刺し網での平均捕獲数は約 16 個体と、多くの個体を捕獲することができたのに対し、8 月中旬以降の平均捕獲数は 2 個体と大幅に減少した（図 5 及び表 4）。これは、平成 28 年秋期（9 月下旬～11 月初旬にかけて 8 回実施：平均捕獲数 4 個体）と同様の傾向であった。この原因として、春期の捕獲個体には pup が多く、産まれたばかりの pup は運動能力の低さや学習期間の短さから捕獲が容易であったことが考えられる。

今回の結果から春期の早い時期に刺し網を行うことで捕獲数を増やすことが可能と考えられるが、亜成獣以上の個体は刺し網を認識して避ける様子が確認され、捕獲個体が pup に偏らないよう捕獲方法を今後、検討する必要があると考えられる。また、学習効果等による捕獲効率の低下が発生しないか、他の時期での捕獲効率等を確認していく必要がある。

なお、試験的に爆竹を鳴らし驚かせて亜成獣以上の捕獲を試みたが、亜成獣以上の個体は捕獲できなかった。

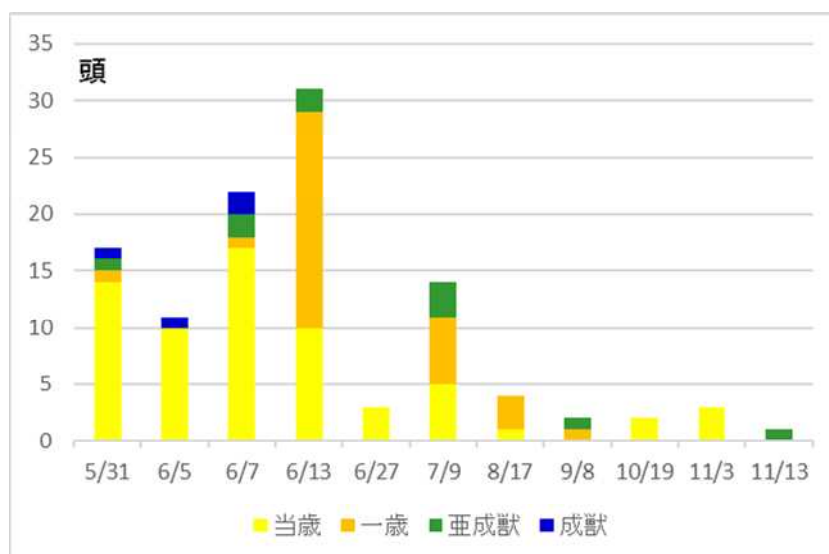


図 5. アザラシ捕獲状況（刺し網）

表 4. 刺し網による捕獲の実施状況

実施日	設置数等	捕獲数	実施場所
5月31日	12反	17個体 当歳♂5♀9、1歳♂1、亜成獣♂1、成獣♀1	岬岩礁
6月5日	12反	11個体 当歳♂6♀4、成獣♀1	西側岩礁
6月7日	12反	22個体 当歳♂7♀10、1歳♀1、亜成獣♂1♀1、 成獣♀2	岬岩礁
6月13日	12反	31個体 当歳♂5♀5、1歳♂10♀9、亜成獣♀2	岬岩礁
6月27日	12反 亜成獣以上 を捕獲する ため、 爆竹を併用	3個体 当歳♀3 (当歳♀3：学術調査目的に放獣をしたため個体群 管理としてはカウントしない)	岬岩礁
7月9日	12反	14個体 当歳♂2♀3、1歳♂1♀5、亜成獣♂1♀2 (当歳♂1：学術調査目的に再放獣をしたため個体 群管理としてはカウントしない)	岬岩礁
8月17日	12反 爆竹を併用	4個体 当歳♀1、1歳♂1♀2	岬岩礁
9月8日	12反 爆竹を併用	2個体 1歳♀1、亜成獣♀1	岬岩礁
10月19日	12反 爆竹を併用	2個体 当歳♂1♀1 (当歳♂1：学術調査目的に再放獣をしたため個体 群管理としてはカウントしない)	岬岩礁
11月3日	12反 爆竹を併用	3個体 当歳♂2♀1 (当歳♀1：学術調査目的に放獣、 当歳♂2：逸出 をしたため 個体群管理としてはカウントしない)	岬岩礁
11月13日	10反	1個体 亜成獣♂1	岬岩礁

## <動物福祉について>

定置網、刺し網で捕獲された個体は、獣医師による麻酔や空気銃を用いた止め刺しによる安楽殺を行った。

定置網で捕獲された個体は34個体中2個体のみ死亡個体であった(表5)。また、刺し網については、漁業者の協力を得て設置時間をできるだけ短くしたり、有識者の助言を踏まえて浮きのサイズを変更したりすることで、昨年7割ほどであった生存率を9割以上にすることができた(表6)。

表5. 定置網を用いた捕獲結果

	当歳	1歳	亜成獣	成獣	齢不明	計
生体	3	4	7	18	1※	33(94.3%)
死体	0	1	0	1	0	2(5.7%)
計	3	5	7	19	1	35(100%)

※逸出した1個体を含む

表6. 刺し網を用いた捕獲結果

	当歳	1歳	亜成獣	成獣	計
生体	61※	29	10	4	104(94.5%)
死体	4	2	0	0	6(5.5%)
計	65	31	10	4	110(100%)

※学術調査のための放獣及び逸出した8個体を含む